ロタウイルスワクチン接種について

ロタウイルスとは

ロタウイルスは、世界のどこでもみられる、主に5歳未満の乳幼児に多くみられる急性胃腸炎の主な原因のウイルスです。主な症状は、白色の下痢・嘔吐・発熱などで、ときに脱水、けいれん、肝機能異常、腎不全、稀に急性脳症等を合併することがあります。年齢にかかわらず何度でも感染発症しますが、乳幼児での初感染が最も重症で、その後感染を繰り返すにつれ軽症化していきます。

ワクチンについて

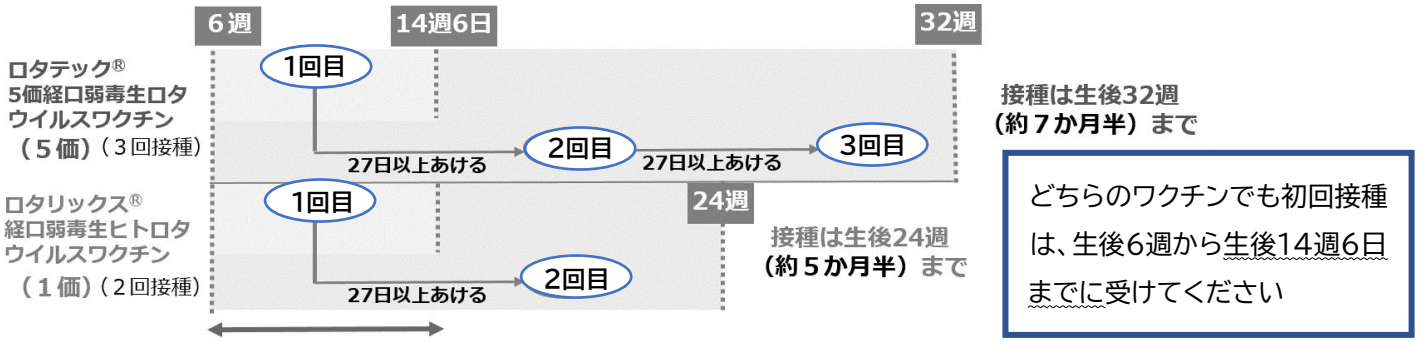
・このワクチンは、 飲むワクチンです。

・ロタテック（5価生ワクチン)とロタリックス（1価生ワクチン)の2種類があり、同様の効果があります。**医療機関で相談し、2種類あるうちからどちらか一方を選んで、必要回数を接種します。2 回目以降も 1 回目と同じワクチンを接種します。**

・ワクチンを接種することで、ロタウイルスの感染による胃腸炎を約80%予防し、重症ロタウイルス感染症の約95%を予防することができます。(ただし、ロタウイルス以外の原因による胃腸炎には予防効果を示しません。)

ワクチンの種類による違い

種類	対象者・標準接種期間	**接種間隔・接種回数**
ロタテック（5価生ワクチン)	出生6週0日後から32週0日後までの間にある者	27日以上あけて3**回**
ロタリックス（1価生ワクチン)	出生6週0日後から24週0日後までの間にある者	27日以上あけて2**回**



どちらのワクチンでも初回接種は、生後6週から生後14週6日までに受けてください

接種前の注意点

●腸重積症の発症リスクが上昇するため、**出生15週0日以降の初回接種はおすすめしません。(厚生労働省による)**

●赤ちゃんのお腹がいっぱいだと上手にワクチンが飲めない場合があるため、接種直前（30分以内）は授乳を控えることをおすすめします。なお、ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題はありません。(再度接種する必要はありません)

●腸重積の発症を高める可能性のある先天性の消化管障害(メッケル憩室など)や腸重積症の既往があるお子さん、重症複合型免疫不全(SCID)のあるお子さんは、接種することができません。このほかにも、接種を中止したり、延期したりしたほうがよい場合もありますので、かかりつけ医師と相談してください。

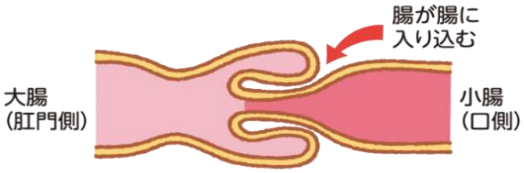
接種後の注意点

ワクチン接種後（特に初回接種後）1週間くらいの間は、腸重積症にかかりやすくなると報告されています。接種後 1～2週間は、次のような症状に注意し、このような症状に気づいたら、すみやかに接種した医療機関を受診してください。接種した医療機関とは別の医療機関を受診する場合は、このワクチンを接種したことを医師に伝えてください。

このサイン、見逃さないで！

■泣いたり不機嫌になったりを繰り返す　■嘔吐を繰り返す
■ぐったりして顔色が悪くなる　■血便が出る

腸重積（ちょうじゅうせき）のイラスト（厚生労働省提供）



【腸重積症（ちょうじゅうせきしょう）について】

・腸重積症とは、腸の一部が腸の他の部分に入り込み、腸が閉塞した状態のことです。**ロタウイルスワクチンの接種にかかわらず、3か月から2歳くらいまでの赤ちゃんがかかりやすい、腸の一部が隣接する腸管にはまり込む病気で、速やかな治療が必要です。**

・主な症状は、嘔吐を繰り返す、泣いたり、不機嫌になったりを繰り返す、ぐったりとして元気がない、血便（粘液と血が混じったような便）が出るなどです。

・腸重積症は手術が必要になることもありますが、発症後早く治療すれば、ほとんどの場合、手術をせず治療できます。

B 型肝炎ワクチン予防接種について

B 型肝炎とは

B型肝炎ウイルスは、血液や体液を介してヒトの肝臓に感染し、急性肝炎となり回復する場合と、慢性肝炎になる場合があります。また、症状が明らかにならないままウイルスが肝臓の中に潜み（持続感染）、年月を経て、慢性肝炎・肝硬変・肝細胞がんなどになることもあります。出生時または乳幼児期に感染すると持続肝炎の形をとりやすいことが知られているため、小児の場合は持続肝炎を防ぐことが最大の目的です。

対象者

生後2か月から**1歳の誕生日**の前日までの者

1歳の誕生日までに3回打つ必要があるため、期限に気をつけましょう！

接種間隔
接種回数

1回目から2回目は27日以上あけて、2回目から3回目は、1回目から139日以上の間隔をおいて3回接種します。

注意点

製剤によっては、ワクチン瓶のゴム栓に乾燥天然ゴム(ラテックス)を使用しているので、ラテックス過敏症のある場合は注意が必要になります。かかりつけ医と相談してください。

副反応

主な副反応：倦怠感、頭痛、接種部位のはれ、発赤、疼痛などの局所反応
重い副反応：まれに、ショック、アナフィラキシー、多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎、ギランバレー症候群など